

前年並みに大豆カメムシの発生が多い
基幹防除の徹底に努めましょう。

1. 基幹防除（3回目）の実施

実施時期目安 8月27日～9月8日

	使用薬剤名 [収穫前日数]	希釈倍数 (10a当たり使用量)	対象病害虫名	使用回数
粉剤体系	トレボン粉剤DL [収穫14日前まで]	4 kg	ハスモンヨトウ、マメシクイガ、 カメムシ類、フタスジヒメハムシ、ダイズサヤマバエ	2回以内
液剤体系	カスケード乳剤 [収穫7日前まで]	4,000倍 (100～300L)	ハスモンヨトウ、ウコンメイガ、 カメムシ類、ハダニ類、 マメシクイガ、フタスジヒメハムシ等	2回以内
ドローン体系		32倍 (0.8L)		

※液剤・ドローン体系はスタークル液剤10も使用可能です。不明な点はJA・農林まで

水稻収穫の合間を狙って防除の徹底を！！
カメムシ防除適期は開花25日後(8/15頃)と開花45日後(9/5頃)です。

大豆を吸汁するカメムシたち

アオクサカメムシ



イチモンジカメムシ



ホソヘリカメムシ



クサギカメムシ



2. うね間かん水

今後も高温・乾燥条件が続く予報となっています。

落莢や今後の充実不足青立ち回避のためにも上位葉が裏返る前にうね間通水を実施 しましょう。

※9月上旬頃まで実施しましょう。

水不足のサイン
裏返る前にかん水

